

花巻地域における雑穀類の生産・販売現場の取り組み

株式会社 プロ農夢花巻統括部長 小原 広和

1. 花巻地域の雑穀生産の概要

花巻地方の雑穀栽培は、平成6年に、食品アレルギーで悩んでいる方に供給することを目的に、大迫町、東和町（当時）で水田転作作物としてヒエやハトムギの作付を始めました。

当時は、どの作物の栽培も試行錯誤の繰り返しであり、今振り返れば、先駆者となった生産者や作業受託組合の方々に感謝をしているところです。

その後、①雑穀を花巻地方水田農業構造改革交付金（産地づくり交付金）の対象作物への位置付けによる生産拡大誘導、②遊休畑を利用したアワやイナキビの栽培、③県の指導による機械化栽培体系の導入、④実需者からの要望に対応した黒米・赤米の栽培等にも取り組んできました。

こうした取り組みにより、平成20年度の雑穀類15品目の作付面積は、750haを超えるまでとなり、農地の有効活用と担い手集団の低コスト生産による農業所得の向上や、環境保全にも結びついています。

また、雑穀は、安全な機能性食品として「国産雑穀」が注目され、首都圏のレストランや学校給食、病院食での利用や、一般家庭での消費の機会が拡大しています。

花巻地域では、こうした需要の動向をしっかりと捉えながら、計画生産に取り組んでいます。

2. 品種・種苗供給対応

これまで、花巻地域の雑穀種子は、主に岩手県農産物改良種苗センター等からの供給に頼ってきましたが、地域内で種子生産を行っていないため、種子の安定供給等に不安を抱えていました。

そこで、花巻農業協同組合雑穀生産部会で種子生産者を育成して採種圃を設置し、平成22年度栽培用優良種子の確保を行うこととしています。

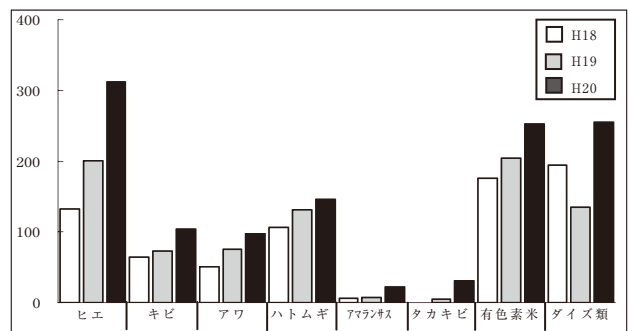
3. 株式会社プロ農夢花巻の取り組み

弊社は、平成11年9月に有限会社として設立され、農作業受委託事業、農機具リース事業、園芸部門の育苗等を手がけてきました。

その後、社団法人花巻農業振興公社から洋らん育苗栽培事業が委託され、平成15年4月、株式会社に組織変更いたしました。

平成17年4月には、花巻農業協同組合から雑穀販売部門が移管され、製品製造システムを導入し、同年7月に現在の製造工場を建設しました。

平成18年6月からは水耕野菜の栽培を始め、平成20年度の弊社売上高は7事業部門で8億円の実績となっています。



注 H18及びH19は実績、H20は見込み。

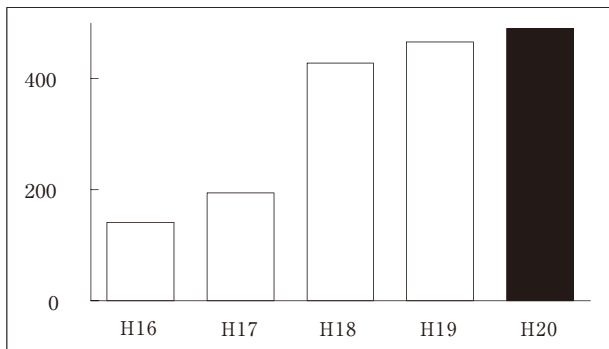
弊社における岩手県産雑穀の取扱量（単位：t）

うち雑穀部門の売上高は約5億円（売上高の62.5%）に達し、花巻産雑穀のほか、岩手県内の雑穀も取扱っています。

使用する県産雑穀は、生産履歴がトレースバックできるもののみとし、弊社独自で残留農薬検査も行っています。

また、弊社の営業販売企画部門では、他企業様との連携による加工食品等新規アイテムの開発に取り組んでおります。

さらに、平成21年度には、製造工場を増設し、県産雑穀類の消費拡大、需要に応じた生産量の確保に積極的な取り組んでいくこととしています。



注 H18及びH19は実績、H20は見込み。

弊社の雑穀部門の売上高の推移 (単位：百万円)

4. 今後の取り組み

輸入食品の事故が相次ぐ発覚等もあってか、雑穀の輸入量は平成6年頃をピークに減少傾向と

なっており、また、国内の食品関係の消費も、少子高齢化等により減退傾向が続いているように思われます。

しかし、食や環境、特に生活習慣病等の医療の分野から見ますと、食生活の見直しと改善が必要とされており、「健康食」としての雑穀の消費は増加傾向にあります。

雑穀の機能性が注目され、研究開発が進んでいると聞いておりますが、弊社においても、栽培や製品製造過程についての情報を明確にお客様にお示しし、「安全・安心・信頼」の置ける産地として、「岩手県産雑穀」をお届けしたいと考えております。



弊社製造工場 (左：小袋商品生産ライン、右：スティック商品製造ライン)